



本当に大切なことに
気づくには？

未来を描く！ 創る！
イノベティブな
生徒たち

写真右から、佐藤さん、石川さん、伊藤さん。

第 11 回

幸せに生きるための力を育む 包括的性教育の授業を中高生に実施

石川 愛^こさん (高校3年生) / 伊藤煌耀^{こうよう}さん (高校3年生) / 佐藤 楓^{かえで}さん (高校3年生)
東京都・私立都文館グローバル高校

待

機児童をテーマに、1年次の探究学習に取り組んでいた石川愛さんは、スウェーデンの保育について書かれた本の中で、包括的性教育という言葉を知った。

「包括的性教育は、ユネスコが中心となり提示した性教育の国際的な指針で、人間の生殖の仕組みだけでなく、性の多様性やジェンダー平等、性暴力など、幅広いテーマから構成されています。包括的性教育のことを知ったことで、性教育とは、恥ずかしがりながら学ぶものではなく、人が幸せに生きていくために必要な学びなのだと思います。こんな大切なことを私たちは学んでこなかったのかと驚き、包括的性教育のことをみんなにも知ってもらおうと考えました」

中高生向けの性教育に力を入れる産科医の講演を聞くなど、包括的性教育に関する知見を深めた石川さんは、1年生の11月、NIE（*1）の時間を利用して1年生と3年生に包括的性教育の授業を行う機会を得た。包括的性教育とは何か、なぜ日本では行われてこなかったのか、性教育は恥ずかしいものかというイ

読者の先生方がご存じの「イノベティブな生徒たち」をご推薦ください！

ご推薦いただける場合は、右の二次元コードをスマートフォン等で読み取っていただき、フォームに沿ってご推薦内容をご入力ください。



教師たち



東京都・私立
郁文館グローバル高校
統括主任
鎌倉好男

ソーシャルアクションが 生徒から生まれる瞬間とは

本校には、社会課題を自分たちで掘り下げ、問題解決のための具体的なソーシャルアクションを起こす生徒は、「being」のメンバー以外にもいます。彼らは、決して特別な経験をしてきた生徒ではありません。普通の生徒であっても、自分の好きなことや得意なこと、関心のあることが社会課題と一致した時には、私たち大人が驚くような活動を始めると、私は考えています。ただ、そうした活動を支え続けていくことは、学校のリソースだけでは不可能ですから、生徒を学校外に送り出し、様々な大人と結びつけることが重要です。「being」のメンバーが現在かかわっているLINEアカウントの開発にも、様々な企業の大人たちが参画しています。「being」のメンバーは、学校とは異なる場で活動する中で、自分の新たな強みを発見し、人生の主人公になる力を獲得すると信じています。

イメージを持ってしまおうのはなぜかといった内容で構成された授業を受けた生徒たちの性教育に対するイメージは変わり、石川さんとともに活動をしたいと考える生徒も現れた。

その1人が、「ルッキズム（外見至上主義）」を探究学習のテーマにしていた佐藤楓さんだ。佐藤さんは、探究学習を通して自分の中に生まれたいもやもやと向き合うため、石川さんとともに包括的性教育の推進に取り組むたいと考えた。

「ファッション業界への興味から、ルッキズムについて探究学習を進めるうちに、化粧品・アパレルといったビジネスは、過度に美白を称賛する宣伝など、購入意欲の促進を目的

とした刺激を人々に与えることで成り立っているのではないかと考えるようになりまし。ビジネスで人を幸せにするとはどういうことなのだろうかとモヤモヤしていたところ、『包括的性教育は、人が幸せに生きるために必要な学問』と訴える石川さんの話を聞き、一緒に活動すれば、自分のモヤモヤを解きほぐすことができるかもしれないと考えました」

伊藤煌耀さんは、石川さんの授業を通して、性に関する知識が「知る必要がないもの」から「知らなければいけないもの」へと変わった。

「それまでの私は、性についての知識、特に女性の身体の仕組みについては、オープンに語り合えないも

の、知る必要がないものだと思いついていました。でも、性に関する授業を堂々と進める石川さんの姿を目にし、また、性のことについてみんなで話し合う経験をしたことで、性についての知識は、人が幸せに生きるために知らなければいけないものなのだ、考えががらりと変わりました。そして、ほかの人にも、包括的性教育を受けるチャンスを提供しようという使命感を抱きました」

同 じ思いを持ったメンバーが、包括的性教育を推進するチーム「being」を結成。中高生を対象にした授業（*2）をこれまで2年間にわたって実施してきた。

「包括的性教育の授業では、男子

生徒にも生理用品に触れてもらったり、生理のことについて学ぶ社会的な意義をみんなで話し合ってもらったりします。ただ、そうした活動に抵抗感を示す生徒もいます。『こうすれば必ずうまくいく』といった最善の方法が存在しないからこそ、試行錯誤しながら、よりよい授業を追究し続けていかなければいけないと思っています」（石川さん）

活動の幅は広がり、2022年度からは、月経周期の管理と性に関する様々な情報収集ができるLINEアカウント「ponoel」（*3）の開発にも協力。全国の学校で包括的性教育の授業を行うという夢もある。自分を知り、自分の生き方を選択する力を育む「幸せになるための学問」を、社会に広く伝えていきたいと、メンバーは考えている。

学校プロフィール

設立 1889（明治22）年
形態 全日制/国際科/共学
生徒数 1学年約90人
2022年度入試合格実績（現役のみ）
国公立大は、山形大、お茶の水女子大、東京工業大などに4人が合格。私立大は、慶應義塾大、国際基督教大、上智大、東京理科大、早稲田大などに延べ108人が合格。海外大学進学33人。

*1 Newspaper in Education の略。新聞などを教材として活用する教育活動。 *2 「being」が行った授業の詳細は、ランドリーボックス (<https://laundrybox.jp/magazine/laurier-ponoel/>) でも紹介されています。 *3 月経周期の管理をしながら、身体や心、人間関係のことなど、誰も教えてくれないにまつわる情報を知ることができるLINEアカウント。 https://www.benesse.co.jp/brand/category/education/20221219_1/